

Supporting communities of practice A survey of community-oriented technologies

Etienne Wenger

I Communities of practice

実践共同体は、人間の様々な試みにおいて関心をともにする人々の集団であり、彼らは、絆を創り出す集合的な学習に従事している。

全ての共同体が実践共同体であるわけではない。近所であることは通常の共同体には十分条件になるが、実践共同体であるためには以下の3つの条件が必要である。

1) 領域

実践共同体には特定の領域に関する最低限の知識の共有が必要である。

2) 共同体

実践共同体には、協同で行う活動、ディスカッション、助け合い、情報の共有が必要である。

3) 実践

実践共同体には、共有された資源、経験、物語、道具が必要である。

ビジネス組織

- ・単独の組織ではなく、組織横断型のつながり
- ・インフォーマルで暗黙的な知識創造と共有
- ・学習と実践に深い関係
- ・組織や国境を越える

教育

- ・内部的に: 学校の学習経験を教科に関するコミュニティへの参加を通じた実践にどう位置づけるか
- ・外部的に: 生徒の経験を学校の外で行われているより広いコミュニティへの周縁的参加にどうつなげていくか
- ・生涯学習的に: 実践共同体を組織することによって、学校に行く時期を越えて生徒の生涯学習のニーズに対してどのように答えるのか。

II The market of community-oriented technologies

Combining dimensions: convergence in the market

- ・社会的な知の構築: グループ対マーケット
- ・知の共有の過程: 相互作用と書類
- ・学習の文脈: 教授と共同プロジェクト
- ・配慮の管理

実践共同体はこれらの交差する場所にある

III Understanding the role of technology

時間と空間

- 1) 存在と可視化
- 2) リズム

参加

- 3) 多様な相互作用
- 4) 関与の効率

価値の創造

- 5) 短期的価値
- 6) 長期的価値

つながり

- 7) 世界とのつながり

アイデンティティ

- 8) 個人のアイデンティティ
- 9) 共同のアイデンティティ

コミュニティのメンバーシップ

- 10) 所属と関係
- 11) 複雑な境界

コミュニティの発展

- 12) 進化: 成熟と統合
- 13) 能動的なコミュニティの構築

IV Development and evaluation strategies

4つのアプローチ

- 1) 既に持っている物を使う
- 2) シンプルなものから始める
- 3) コミュニティ志向のシステムを使う
- 4) 企業向けの協調システムを使う

考慮すべき課題

- 1) どのようなタイプのコミュニティを支援しようとしているのか
- 2) 技術を使って何をしようとしているのか
- 3) 技術によって行動を変化させたいのか
- 4) 価格体系の効用はどうか
- 5) 技術が要求するものは何か
- 6) 技術が役割を果たす部分はどこか